

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

令和5年5月1日
(2023)

第129号

■表紙	1
■患者さんの権利	2
■退職者・異動者挨拶	3～5
■新人紹介	6～8
■花見会・本省ハンセン病対策室来園	9
■不自由者棟 いきいきわくわく発表会	10
■集団リハビリテーション活動再スタート	11
■思い出のレクリエーション	12

■ハンセン病療養所 社会復帰支援事務担当者会議	13
■消防訓練(夜間想定)	14
■看護研究発表会	15
■医療安全実践報告会	16
■感染管理認定看護師の教育課程を修了して	17
■鹿児島大学医学部5年生 施設見学	18
■奄美和光園の歴史	19
■NST News Letter	20
■令和4年度 診療統計	21
■人事異動・和光園日誌・編集後記	22

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



奄美和光園は本年度、創立80周年を迎えます。猛威をふるった新型コロナウイルスの取り扱いが5類となり、これまで自粛していた園内の各種行事を開催できるよう動きはじめました。少しずつですが入所者の暮らしも戻りつつあり、以前のような地域の方々との交流を望んでおられます。これから先も奄美和光園は地域の方々と結のこころを紡ぎ、つながりをより一層深め、地域開放に向けた取り組みを推進したいと思います。

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

患者さんの権利

★人格を尊重した医療を受ける権利

誰でも、どんな病気でも、安全で良質な医療を平等に受ける権利と、個人の人格や価値観が尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

★医療に関する十分な説明を受ける権利

検査、治療等について、あるいは他の治療方法について、納得されるまで十分な説明を受ける権利があります。

★個人情報保護の権利

診療の過程で得られた個人情報やプライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれる権利があります。

★診療情報の提供を受ける権利

ご自身の診療録の開示を請求する権利があります。

★検査や治療等の自己決定権の権利

検査、治療法などの選択、あるいは拒否をする権利があります。
また、セカンドオピニオンを受ける権利があります。

患者の皆様へ

- ご自分の健康に関する事を詳しく正確にお話し下さい。
- あらゆる危険を回避するために職員との連携にご協力下さい。
- よりよい医療・療養・生活環境を維持するために入院の規則をお守り下さい。



国立療養所 奄美和光園

H22.5.22 作成

退職者・異動者挨拶

退職の日を迎えて

月日は早いもので奄美和光園にて退職の日を迎えることになるとは思ってもみませんでした。私にとって和光園は関係が深く、母が看護師として40年以上働いていた場所でもあり、私が昭和61年に薬剤師免許を取り就職が決まるまでの数か月、当園の薬局で研修をさせて頂いたところでもあります。それから62年に南九州病院に賃金で入局し南九州中央病院、志布志病院、都城病院、九州循環器病センター、鹿児島医療センター、沖縄病院、都城病院、そして平成24年に奄美和光園で科長に昇任、宮崎病院、大牟田病院、都城医療センターを経て令和3年にまた奄美和光園に戻って

きました。

平成24年の赴任当時、入所者のみなさんは40名ほどおられ一緒にゲートボール大会や海に遠足に行く等たくさんの思い出があります。今は、入所者のみなさんも高齢となられコロナによってイベントも少なくなりましたが、小さいながらも夏祭り、敬老会等みんなで楽しい思い出を作ることが出来ました。今回、退職いたしますが今後も90歳になる母と奄美和光園を見守っていきたいと思います。

ほんとうにありがとうございました。

薬剤科長 佐多 卓也

お世話になりました

平成27年4月に和光園に赴任し、7年間お世話になりました。入所者のみなさん、職員の方のおかげで、楽しく過ごすことができました。大変感謝申し上げます。

赴任当初は、ゲートボール大会、夏祭り、敬老会、クリスマス会など、いろいろな行

事にて入所者の方々と一緒に過ごしたことを、懐かしく思い出します。これからもお体を大切にお過ごしください。大変お世話になりました。

薬剤師 田原 直行

お世話になりました

奄美和光園事務長補佐として2年間、定年再雇用の福祉室福祉係として4年間の合計6年間、入所者の皆様、職員の皆様には大変お世話になりました。昭和52(1977)年4月1日付け、国立別府病院(現国立病院機構別府医療センター)採用から46年間、九州管内最北端の国立対馬病

院(現長崎県病院企業団 長崎県対馬病院)から最南端の国立療養所宮古南静園までの12施設勤務、大過なく本日を迎えられるのは、皆様のお陰だと感謝しております。この場をお借りして、お礼申し上げます。

福祉係(学芸員) 岩辻 好夫

お世話になりました

福祉室で3年、事務所で1年、計4年という長い時間を和光園で過ごしました。

最初の頃は、週末ごとに自宅に帰ることもできなくて、周りに飲食店も少ない中で毎日の食事をどうするかということが大きな問題でした。考えた結論は当然ですが、自分で何とかするしかないということで、

ユーチューブ等の動画サイトを活用して見よう見まねで作り始めました。おかげさまで、現在では作り方を見なくてもある程度の料理は作ることができるようになり、市販のものよりも自分で作った方が美味しいと思えるようになりました。

最後になりますが、入所者のみなさんに

おかれましては、今後も奄美の自然の中で穏やかに過ごしていただき、職員のみなさんにおかれましては、これまでと同様に入所者を支えていただければと思っています。

4年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

事務長補佐 上脇田 勝教

お世話になりました

3年前、この奄美大島に赴任する際に恩師から、「仕事でその土地に住めるという絶好の機会です。しっかりその土地を味わってきなさい。」と、背中を押されました。私は、この恩師の教えを忠実に守り、「奄美大島でここは行くべし」と伝え聞く場所には、島の東西南北、高いところも海の中も散策し、伝統文化の体験や奄美の味わいを存分に楽しんだと自負しています。特にこの1年間は、素晴らしい巡り合わせの上司と奄美観光巡りの好機を重ね、総師長室ペアで奄美の親善大使に立候補できるほど健脚を磨き合いました。島の風土になじみすぎて体重大幅増となってしまいましたが、奄美大島そしてこの奄美和光園は、私にとって心のふるさとのように感じています。

心泰身寧是帰処（心身ともにやすらかに過ごせるところこそ己が帰るべき場所）

和光園でそのときその場をともに過ごしたものの同士でしかわかり合えないこと、一期一会の大切な出会いがあったこと、そこに私が求めるほんもの探しができたこと、

一生の宝となりました。ほんとうはコロナを吹き飛ばして入所者や職員のみなさんと同じ釜の飯を食したかったという心残りがありますので、きっとまたこのふるさと奄美を訪ねたいと思っています。

さいごに、日本語の「さようなら」のすてきな響きと未来を大切に作る日本人の意味深い人生観を紹介させてください。「さようなら」は、“さようであるならば、～”、“そうであるならば、～”と、～から先が省略されていて、「そうであるのなら」の先は、自分でいかようにも考えられる言葉だと言われています。そのようであるのならの先には、今までの自分に対する総括、思い出への感謝、これからの未来への覚悟、可能性への期待など、様々あると思います。私も、「さようなら」に感謝の思いを込め、次の未来の一步を自分で考え進んでいきたいと思っています。

みなさん、ほんとうにお世話になりました。そしてまた、お訪ねいたします。

副総看護師長 林 理恵

奄美の2年間

令和3年4月に赴任して2年。多分他の施設では味わえない経験をさせていただきました。まずは赴任して間もなくの「奄美世界遺産登録」。多くの人が世界遺産登録に沸き、世界遺産登録祝い限定ラベルの焼酎が出ていたので思わず買ってしまおうという、「限定」ものに弱い日本人丸出しの行動（ちなみにビール派です）。

次は「津波警報」。寝ていると、目覚ましアラームとは全然違う激しい音。何事かと思えば「津波警報」と出ています。寝ぼけながら、「地震もなかったのに。誤報か？」と思った矢先に、けたたましく鳴るサイレン。災害放送が大音量で流れました。とりあえずテレビをつけると確かに放送さ

れ、奄美付近だけ「津波警報」となっています。園へ出向くと、園長をはじめ多くの職員が集合されていました。幸い大事に至らなかったのはご存じのとおりです。

そしてこの2年間ずっと続いた新型コロナウイルス感染対策。来たばかりのゴールデンウィークに、奄美で爆発的拡大が発生し、一時期人口4万人強の奄美で連日100人を超える感染者が報告されていました。そんな中、「入所者を守る」という園の方針のもと職員が一丸となり「持ち込まない、持ち込ませない」を徹底し、感染しても拡大させることはありませんでした。このように、長年奄美にいらした方も初めての経験をこの2年間で体験することと

なりました。奄美の観光などはほとんどできなかったのは残念ですが、貴重な瞬間にいたという思い出ができました。今度は普通に観光の思い出を作りに来たいと思います。

皆さんは、これからも新型コロナウイルス感染対策をしつつ、素敵な思い出を作ってください。2年間お世話になりました。

庶務班長 岡部 達枝

お世話になりました

平成最後の月、平成31年4月に和光園に赴任してきてからの4年間、入所者のみなさん、職員の方には大変お世話になりました。

入所者のみなさんには、主に園内行事、運転業務で関わらせていただきました。コロナ禍の中でなかなか交流の場を持つことが出来ませんでした。運転業務に携わるときにみなさんの笑顔を見る事が出来て安心しました。

和光園で一番楽しかったことは、1年目に参加させてもらった奄美市の舟漕ぎ大会です。練習は、諸先輩方の厳しい指導の下大変でしたが、非常に充実した体験をさせていただきました。コロナ禍で1回しか参加できなかったことが残念でなりませ

ん。

4月からは同じハンセン病療養所である、沖縄愛楽園に異動となります。これで、九州のハンセン病療養所は全制覇となります。新たな出会いに期待して頑張りたいと思います。

入所者のみなさん、お体を大切にお過ごしください。みなさんの周りには常に信頼できる職員がたくさんいます。いつでも頼ってください。今年こそは、たくさんの行事が出来ればいいですね。

4年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

庶務係長 綾部 純一

ありがとうございました

2年前に初めて、ここ奄美の地を訪れました。空港に到着し、和光園までの道すがら、バスの車窓からの美しい景色に感動するとともに、なぜか、とても懐かしい印象を受けました。

短い期間ではありましたが、入所者の皆さんや職員の皆さんと過ごした和光園での2年間はとても充実し、実り多いものでした。島の自然の美しさ、そして島っ子ゆのあたたかさに癒され、何年も前からここにいたかのように感じていました。

看護師長としてはまだまだ未熟で、至らぬところばかりでしたが、皆さまの支えがあって今の自分があると、本当に感謝しています。

ここ和光園での学びを、次の任務地で活かしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

ありがっさまりよーた。

不自由者棟 看護師長 今里 憲太郎

お世話になりました

この度、一年間の奄美和光園での勤務を終えて転勤となりました。元々、離島や自然が好きでよく充実した一年となりました。入所者の方々と楽しくリハビリをすることが出来てとても感謝をしています。

また、職場だけでなくプライベートでもバドミントンを通して島の方々と交流が出

来たことや郡民体育大会の代表にも選んで頂き、楽しく過ごすことが出来ました。一年間という短い期間でしたが、本当にありがとうございました。また、新たな地から頑張ります。

作業療法士 下大迫 将喬

新人紹介

薬剤科長 佐々木 幸作 (ささき こうさく)

熊本医療センターから赴任してまいりました薬剤科長の佐々木と申します。鹿児島出身ですが奄美ははじめてです。動植物など自然の豊かさを肌を感じ、また海が大変きれいなものには驚かされました。最近ご無沙汰でした趣味の魚釣りを始めてみようかなと思います。皆様にご迷惑をおかけしないよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



事務長補佐 村口 武 (むらぐち たけし)

菊池恵楓園より赴任しました事務長補佐の村口と申します。出身は福岡県です。自宅の花木の水やりで妻と揉めるのが嫌な6回目の単身赴任者です。

入所者の皆さんが心穏やかに生活していけますように、働く職員全てのベクトルが入所者の皆さんに向く職場環境の維持を目指し努力しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

副総看護師長 衛藤 ゆかり (えとう ゆかり)

宮古南静園から参りました副総看護師長の衛藤ゆかりと申します。ハンセン病療養所の勤務は、菊池恵楓園、宮古南静園、奄美和光園で3施設目です。宮古、熊本、鹿児島で勤務させていただき、素晴らしい環境に出会えることに感謝しています。

今回、奄美での生活は初めてですが、山・川・海の自然豊かさと木々の緑に感動し、癒やされています。この爽快な気分を大切にして、入所者の皆さんが笑顔で穏やかに過ごせますように、日々の生活を支援したいと思っています。これまでの経験を活かして頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



庶務班長 毛利 安則 (もうり やすのり)

4月1日付で大分医療センターより庶務班長として参りました毛利と申します。

奄美大島に来るのは初めてですが、妻と、4歳の息子の3人で、自然豊かな奄美の地で、たくさんの良い思い出を作りたいと思っています。

仕事の面では、慣れない仕事で悪戦苦闘しておりますが、徐々に慣れていき、早く奄美和光園の一員として、貢献していけるよう努力して参りたいと思います。これから、どうぞ、よろしくお願いいたします。

**庶務係長 井上 進 (いのうえ すずむ)**

4月1日付で肥前精神医療センターより庶務係長として赴任しました井上と申します。公私ともに奄美は初めてですが、想像以上に美しく雄大な景色、独自の豊かな文化、全てがコンパクトにまとまり便利な名瀬の町など、赴任早々から奄美の魅力を存分に実感する毎日です。

仕事の方では、職員の皆さんが安心して働ける職場環境作りを通して、入所者の方々の安寧な生活の一助となるよう、微力ながら頑張らせていただきたい所存です。よろしくお願いいたします。

治療棟 看護師長 本田 千鶴子 (ほんだ ちづこ)

4月1日付で星塚敬愛園より参りました本田千鶴子と申します。この度、奄美和光園の入所者の皆様の生活支援をできることを大変嬉しく思い、感謝しております。

入所者の皆さんが1日1日を大切に笑顔で暮らし、「ここに居てよかった」と思ってもらえるように努めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**薬剤師 杉町 代 (すぎまち だい)**

4月1日付で宮崎病院より赴任致しました杉町と申します。豊かな海と緑生い茂る山々の奄美に圧倒される日々ですが、この大自然に癒されながら日常を過ごしていきたいと思ひます。

療養所業務が初めてとなるため不慣れな点が多々あるかと思いますが、入所者の皆さんに喜んで頂けるよう精一杯努めて参ります。よろしくお願いいたします。

作業療法士 二木 琢也 (ふたつき たくや)

今回、4月1日付で『星塚敬愛園』より参りました。星塚敬愛園の入所者の方からは、「奄美は暖かくて、いい所だよ。」「みんな優しく楽しく過ごせるよ。」と教えていただきました。素直な私は、期待に大きく胸を膨らませやってまいりました。

新たな生活で不安もありますが、それ以上に和光園の入所者の皆さん、職員の皆さん、また奄美大島の皆さんとの出会い、交流を楽しみにしています。

和光園の入所者の方から、「二木が来てよかった。」「二木のリハビリは最高だ!」と言ってもらえるように頑張りたいと思ひます。少しでも皆様の力になれるように努力したいと思ひますので、気軽に声掛けや相談をしていただきたいと思います。

宜しくお願い致します。



庶務 共済係 石野 春奈 (いしの はるな)

4月より共済係として入職しました石野と申します。
再びご縁があり和光園に戻って来たことを大変嬉しく思っております。

和光園の共済係として、皆さんが日々のお仕事を快適に、またご家族の生活を守れるようにお手伝いさせていただきますので、ご迷惑をおかけすることもあると思いますがよろしくお願い致します。



調理助手 増本 美歌 (ますもと みか)

3月より給食室で勤務させて頂いております増本美歌と申します。

調理の仕事は初めてですが、分かりやすく丁寧にご指導して頂き、日々感謝しております。

皆様のお役に立てる様、頑張りたいと思います。
よろしくお願い致します。

調理助手 森下 良美 (もりした よしみ)

3月17日より給食室で調理助手として勤務させて頂いております森下良美と申します。給食を通して、少しでも、みなさんの笑顔が増やせるお手伝いをしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



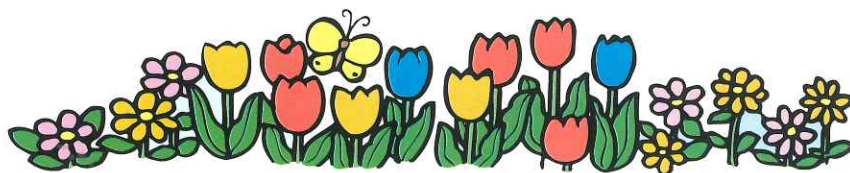
調理助手 中原 公子 (なかはら きみこ)

4月より、給食室にて調理助手として勤めております中原公子と申します。

園内では、広い敷地の中に色彩やかな花や木々に囲まれて癒されています。

一日一日、日々学ばせて頂きながら、従事して参りたいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。





お花見会

奄美和光園では、記念公園に植えられている緋寒桜が満開を迎える1月下旬から2月初旬の時季に合わせてお花見会を開催しております。昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染対策の観点から中止せざるを得ませんでした。今年は「少しずつ入所者さんの日常を取り戻す」ため、2月2日に3年ぶりに開催しました。

とはいっても、年末年始からの新型コロナ第8波の懸念もあり、余興を楽しみながら、桜を眺め、お弁当を食べるといった以前のスタイルには及ばず、当日は飲食無し、午後2時から30分程度の短時間の開催でした。

さらに、前日の天気予報では、雨+強風の予報であったため、屋内で桜のスライドショーを流しながらのお花見でした。近年は悪天候のため屋内でのお花見が続いていましたが、今年も実物を眺めながらのお花見とはいかず、残念でなりませんでした。

会は入所者5名の方のカラオケと、飛び入りで当園の保育園園児にかわいい踊りを披露していただき、入所者の皆さんにとっては外出もままならない状況で、短い時間ではありましたが楽しんでいただけたのではないかと思います。

福祉室長 高橋 貴博

本省ハンセン病対策室来園

コロナの影響で、近年、入所者さんの御意向を本省の方々に直接お伝えする機会を逸しておりましたが、僅かながら、コロナの終息の方向性を少しずつでも感じ始めた令和5年3月15日(水)、本省ハンセン病対策室より3名様(医療経営支援課 中西推進官、ハンセン病対策室 藤岡室長、今山調整官)に当園に駆けつけていただきました。

本省ハンセン病対策室におかれましては、園の運営に関して、入所者さんの生のお声をお聞きすること、幹部職員との意見交換を主眼に、この3月～5月、全国13園を行脚いただきます。

当園は、順番として、その2番手ということで、お迎えいたしました。改めて、本省皆様、当日は、東京から奄美大島まで、遠路遙々、しかも滞在時間実質2時間少々という強行軍の中で御来園いただきましたことを、改めて本紙を通じ、御礼申し上げます。

前述どおり、今般は入所者さんの生のお声をお聞きいただきましたのですが、当

園は令和元年9月より自治会が休会している中、本省の皆様の御訪問をお受けすることになりましたが、今般の入所者さんとの直接の面会は叶わぬものになってしまいました。

しかしながら、今後の園の運営に期す入所者みなさんの思いは、本省の皆様にとしっかりと受け取っていただくことができたと思っております。

本省皆様におかれましては、当園50柱の御霊が眠る納骨堂への献花、自治会事務所、歴史資料館への御訪問を経て、幹部職員との意見交換をお勤めいただき、その足で東京にお帰りいただくことになりました。

WEB会議が世の主流になって久しいですが、今般、本省の皆様から、フェイス トゥフェイスの機会をいただけた事について、園を代表させていただき、心より御礼申し上げます。この度は、御来園、誠にありがとうございました。

事務長 瀬之口 眞澄

♪ 不自由者棟 いきいきわくわく発表会 ♪

入所者のみなさんが日頃行っている個人レクリエーションやOT活動、好きなこと、楽しいことなどを披露する「いきいきわくわく発表会」を不自由者棟で2月に初めて開催しました。入所者と職員が一緒になって楽しめるよう試行錯誤しながら、入所者のみなさんとともに発表会の練習や準備に取り組みました。

1時間という短い時間ではありましたが、歌を歌ったり、踊ったり、OT活動で創作した作品を紹介したり、昔の思い出話も咲かせながら入所者と職員で楽しむことができました。当日は、一般舎か

らの飛び入り参加や園長はじめコ・メディカル職員の参加、作業療法士による体操や入所者の写真入りキーホルダーの手作りプレゼントもあり、入所者みなさんのとびっきりの笑顔で職員も元気をもらいました。

コロナ禍で入所者同士の交流の機会やイベントの中止が続いていましたが、少しずつ元の生活や楽しみを取り戻し、和光園ならではの笑いを広げていきたいと思っています。

不自由者棟 看護師 山口 千春



♡ 歌姫&ほほえみバンド ♪

集団リハビリテーション活動再スタート

喜ばしいことに、令和 2 年以降、中断となっていた集団リハビリテーション活動の再開が今年 1 月末に決定されました。

3 年ぶりの集団活動ということで、現在の OT スタッフとして初めて集団活動を提供することとなり、入所者の皆さんにどうすれば楽しんでいただけるだろうかと、同時に頭を悩ますこととなりました。そのような時、営繕の職員さんに「まず自分達が楽しむこと」と、人を楽しませる心構えについて助言をいただき、そこから前向きな考えに切り替わりアイデアがぽつぽつと出てくるようになりました。

そんな密かな背景もありつつ、多くの方のご理解とご協力を得て、2 月 14 日に集団活動が晴れて再開されました。初回にも関わらず、8 名の入所者さんが参加され、皆で健康体操・ホッケー・魚釣りゲームを行いました。特に魚釣りゲームでは、皆さんが互いに負けまいと身を乗り出しながら釣竿を伸ばし、熱心に魚を釣り上げようとする元気なお姿を拝見でき、久しく無かった光景を目の前にし

て大きな感動と嬉しさを覚えました。

2 回目の集団活動では、田中 S T より寄贈されたお花を皆で囲み、生け花を行いました。きれいに仕上がったお花は、入所者の作品として廊下に展示させていただき、「すごい」「上手に生けられている」など、多方面から好評と称賛の声が寄せられておりました。また、「花を生けるのは初めて」と言われていた男性入所者さんが、大変出来栄の良い作品を作られていたことも印象的でした。

集団リハビリテーション活動は毎週火曜日（第 3 火曜を除く）の 14:30～15:10 に定期的に催していく予定です。皆さんが顔を合わせ、安心と楽しみを感じられる場を継続的に作っていきけるよう、職員一丸となって頑張っ参ります。また、活動にご協力いただきました各部署の方々（看護師、介護員、営繕、会計、庶務、リハビリ室等）、誠にありがとうございました。今後ともご協力をお願いすることがあると思いますが、何卒よろしくお願い致します。

作業療法士 湯脇 寛真





思い出のレクリエーション



入所者2名が以前から希望されていた思い出のレクリエーションが実現できました。当日のお天気を願い、てるてる坊主を家の縁側に飾り、体調を整えると共に万全の感染対策をし出かけました。

一人の入所者は、2月28日に、元職員と一緒にいった大和村の宮古崎トンネルを目指して出発。大和村の国直うみがめ公園で元職員と再会ができ、「天候も良くて最高や。来て良かった。」と始終笑顔でした。また、車中から見える海を眺めながらみんなで「これからトンネルに入りまーす！」などと、大笑いして盛り上がりました。

もう一人の入所者は3月10日に家族と一緒におにぎりを食べた有良の海での思い出を偲ぶため、家族の墓参りへ行きました。それから有良の海を眺め、潮の香りを楽しんでいました。

コロナ禍で外出が難しい今日ですが、それぞれの思い出を振り返るひとときとなりました。「次は別の思い出の場所へ行きたい。」と、新たな願いの言葉も聞かれました。これからもっと、みなさんのレクリエーションと笑顔の思い出が増えていきますように！

治療棟 看護師 今里 百合子



令和4年度 全国13園 ハンセン病療養所 社会復帰支援事務担当者会議

令和5年3月10日(金)に、社会福祉法人 ふれあい福祉協会主催によります全国13園 ハンセン病療養所 社会復帰支援事務担当者会議が奄美和光園にて開催されました。

この会議における対面での会議開催は、令和元年に宮古南静園にて開催されてから約3年6か月ぶりの開催になりました。

初めに、主催者側であります社会福祉法人 ふれあい福祉協会三木理事長の挨拶に続き、当園馬場園長による挨拶と奄美和光園概況説明とハンセン病の後遺症についての講話がありました。日頃、ハンセン病療養所に勤めているソーシャルワーカーの皆様たちでしたが、踏み込んだハンセン病後遺症の話に真剣に耳を傾けておられました。続いて奄美和光園施設見学を行いました。その中において途中、坂口病棟師長による感染対策の奄美和光園の特色の説明があり続いて、社会交流会館見学、旧納骨堂等歴史的建造物等他施設の見学をし、現在の納骨堂にお

いて御霊に対し手を合わせ、冥福をお祈り致しました。

昼からは再度、会議にうつり各園の抱える問題点について討議がありました。久しぶりの対面での会議であったためか、最初は遠慮がちに討議を行っていましたが時間の経過とともに忌憚のない活発な意見が交わされ、帰園してからの活力になった会議となりました。

福祉室MSW 有川 清四郎



消防訓練・夜間想定（新たな取り組み）

令和5年2月9日、奄美はすっきりしない天気です。午後の消防訓練は雨天バージョンに変更するか、そのままいくか悩ましいところでした。奄美歴2年ですが、雲の動きをなんとなく読み取れるようになり、北東の空が暗くないから雨は降らないと判断し、そのまま決行することとしました。見事的中。なんとか雨に降られず実施できました。

さて、今回の訓練は事前の打ち合わせで、いかに早く現場に駆け付け、皆で意見を出し合い、治療棟の自転車を利用する、当直用救急車で車いすを運ぶなど新たな試みを行うこととなりました。結果、到着するのは早くなりましたが、消火班、患者搬送班が入り乱れて、しっかりと指示を出す人がいないと、現場が混乱することが分かりました。以前から放送の指示、現場看護師

長の指示を聞いて行動するようにはなりましたが、今回は指示を出す方も余裕がなく、副総看護師長が到着し、やっと患者搬送班の動きが出来ていました。消防隊からも、「人命第一」との講評を受け、今後の班体制も検討していかなければと感じました。職員の皆さんからも訓練後の意見をいただき、これらを参考にまだまだ改善すべき点も多いですが、入所者の皆さんが安心・安全に過ごせるように、訓練のシナリオを考えていきますので、多くの職員が訓練に参加して落ち着いて行動できるようになっていただきたいと思います。今後ともご協力をお願いします。

庶務班長 岡部 達枝



看護研究発表会

令和5年2月16日(木)午後1時間の日程で35名の参加者を前に、3年ぶりに口演による看護研究発表会を開催しました。今年度も講師の永田美和子先生のご支援により、研究論文完成、発表の場へと導いて頂きました。

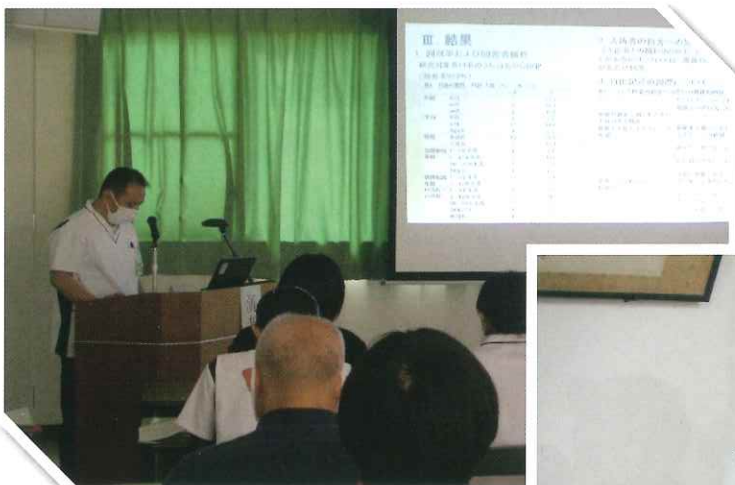
病棟は、入所者が抱く自舎生活への思いを支える看護職員の想いや支援内容をテーマに研究に取り組み、人生の意味付けから今後の退院支援へと繋げることができました。また、不自由者棟は、入所者と家族のつながり支援の現状と看護師の役割を探究し、ハンセン病療養所における家族看護の意義と今後の課題を導き出すことができました。看護師長研究で

は、看護師の自己啓発に影響を及ぼした経験と支援内容に関する研究が行われ、内発的動機付けによる人材育成の意義を導いていました。

各発表者の緊張も伝わってきましたが、それぞれの思いを込めたスライドによる表現や語りは、研究結果を効果的にアピールでき、聴講者との活発な質疑応答では熱気も感じられました。研修生は、多くの講評や評価を基に更に論文の完成度をあげていく学びの機会となりました。

これからも看護職員としての探求心を忘れず看護の質の向上を目指し、入所者みなさんのよりよい支援へと繋げていきたいです。

病棟 看護師 鶴村 あさみ



医療安全実践報告会

令和4年度医療安全実践報告会が3年ぶりに集合口演形式で、2月20日(月)11:00～12:00 奄美和光園会議室にて開催されました。最近の2年間は、ポスター掲示や音声付きスライド配信方式での実践報告でしたが、久しぶりに多職種集合の場での口演や質疑応答には、ライブならではの緊張感と交流感を感じました。発表部署は隔年で担当しており、今年度は放射線科・薬剤科・検査科・看護課・事務(会計班)の全5部署が、1年間の医療安全活動の取り組みについて発表しました。活発な質疑応答が行われ、部署安全推進担当者から講評も得ました。当日参加できなかった職員からも後日配信スライドを視聴した上で意見を集約し、次年度の学会発表への推薦選抜に職員全体の声を反映させていけるようにしています。令和4年度は、熊本での国立病院総合医学会に前年度の取り組みを推薦された栄養部門とリハビリ部門

が発表しました。

今年度の発表テーマは、放射線被曝に関する基礎知識の職員教育、抗精神薬・ハイリスク薬管理、検査結果の診療連携、園内BLS・緊急時対応訓練、園内危険箇所の改善報告内容で、多職種が関係する活動であり、職員の関心が高い内容でした。参加者からは、「他部署の医療安全に対する取り組みを知ることができ、大変勉強になった。」「入所者の生活を職員全体で守っていくためにも情報共有することは意義がある。」との意見があり、各部署だけでなく多職種で連携したチームでの医療安全活動の推進がとても大切だと感じました。

これからも奄美和光園の入所者が笑顔で安心して過ごせるよう、全部署の“守り隊”の活躍を期待しています。

医療安全管理担当

副総看護師長 林 理恵



感染管理認定看護師の教育課程を修了して

世界中で猛威をふるった新型コロナウイルス感染症も収束の兆しが見え、3月現在日本ではマスク着用が個人判断となりました。しかし変わらず高齢者への感染や重症化リスクは続いています。入所者を守るためには今後も園内で感染対策を継続することが大切です。

さて私がこんなことを言うのは、園代表として宮崎県立看護大学で感染管理認定看護師の教育を受けたからです。微生物や消毒・滅菌など感染管理の座学を3ヶ月、感染症指定病院での実習を1ヶ月半、あとは課題や試験の毎日でした。毎日何時間もの学習は辛くもありましたが、それ以上に使命感を持つての最新知識の習得や同じ志のクラスメイトとの出会いは、人生において貴重な経験となりました。覚悟を決め行って良かったと心から思っています。

このような機会を与えて下さった園や職員の皆様に感謝しています。これから入所者や職員を感染症から守るためにICTチームで協力し頑張りたいと思います。

不自由者棟 看護師 光村 真弓



鹿児島大学医学部 5 年生 施設見学

2月24日、その日の最終便で鹿児島に帰るというハードスケジュールのなか、2週間の地域実習のカリキュラムの一環として鹿児島大学医学部5年生が施設見学に訪れました。

90分という短い時間、あいにくの雨で施設見学もできず座学で終わってしまいましたが、ハンセン病は過去の疾患ではなく、ハンセン病後遺症やハンセン病問題は現在も存在すること、世界的には年間20万人

ほど新規発症者がいる感染症であることなどを説明しました。

臨床実習で、診療にあたる医師の姿を間近で見学したり、自らも患者と接したり、5年生の終わりともなると「なりたい医師像」が具体的になる時期です。今回の経験が、理想像の中で小さくても欠かせないピースの一つになることを願います。

感想文

鹿児島大学医学部医学科5年 松本 康誠

ハンセン病と聞くと、数年前に鹿児島大学の感染症の歴史の中で学んだことを思い出します。しかしこれまで、どこか過去の疾患のイメージがあり、日々実習する中でも、ハンセン病について詳しく学ぶ機会はありませんでした。

今回、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、離島実習が再開となり、初めて訪れた奄美の地でどのような医療があるのだろうかと様々調べる中で、全国で13ヶ所しかないハンセン病療養所の一つが奄美にあることを知りとても興味が湧きました。

馬場先生の講義を受けて、ハンセン病の患者さんが過酷で言葉に言い表せないとても悲しい歴史を辿ってきたことを知り、衝撃を受けました。治療すれば治る病気であるにも関わらず長い間人々に正しく理解されず、また、周知されてもな

お偏見と差別が残る現状に心が痛みました。今回の講義で、私が将来医師として働く中で、ハンセン病について正しく人々に伝え、差別や偏見をなくすることが責務だと強く感じましたし、ハンセン病の患者さんやご家族に対して、もしサポートできることがあるならばサポートして差し上げたいと思いました。またこれを通して、持病により社会の偏見と差別に悩まされる人々がハンセン病のみならずいらっしゃるのでは考えるきっかけになりました。

今回の実習が私にとって得難い経験になっただけでなく、改めて1日も早く一人前の医師になりたいという思いが一層強くなりました。この度の経験を活かし、より一層自分を磨いて参ります。



3月にも鹿児島大学医学部5年生1名と3年生2名が訪れました。奄美和光園も島の医療機関の一つとして、今後も近隣の医療機関での実習の際に当園を訪れていただ

く機会が増えると良いと思います。

園長 馬場 まゆみ

一 奄美和光園の歴史 一

このたび定年再雇用期間が終了するため、令和5(2023)年3月31日迄の勤務となりました。交流会館に関しては、多くの情報、ご助言をいただきありがとうございました。微力ではありましたが、平成31(2019)年4月から4年間、奄美和光園交流会館(歴史資料館)の担当として、和光園の歴史紹介、ハンセン病に対する正しい知識の普及及び啓発等に努めて参りました。少しでも、入所者等の名誉回復につながれば幸いです。

また、学芸員の資格も取得^{*1}させていただき、誠にありがとうございました。4年が経過し、少しは学芸員らしい仕事(調査・研究等※)が出来るようになってきていたのではないかと思います。このあたりが潮時だと考えています。

平成28(2016)年頃、何か研究をやってみようと、約2年間受験勉強の末、通信制の大学院を受験したところ、合格することが出来、平成30(2018)年4月から約2年間、多忙な仕事の合間を活用してゼミに

通いながら、情報学系の研究を行いました。歴史資料館としての奄美和光園交流会館の学芸員は、人文社会科学系に属する学問領域を専攻し、それについての一定程度の知識を有すること等が大前提となります。私の大学院での専攻は情報学系ですが、大学では、192単位を修得しており、その中には人文社会学系の科目(心理学、史学、教育学、社会学、情報学等)も含まれています。多くの科目を履修すれば、専門家になれるものではありませんが、大学及び大学院での学習・研究は、学芸員の仕事に役に立ったと考えています。

最後になりますが、皆様におかれては、お体にご自愛ください。特に入所者のみなさんにおかれましては、穏やかに、お元気で過ごし下さいますよう、お祈り申し上げます。

福祉係(学芸員) 岩辻 好夫

本コーナーは今回をもちまして休止とさせていただきます。



交流会館(歴史資料館)

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/amami/kouryuu.html

※博物館法 第四条

3 博物館に、専門職として学芸員を置く。

4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。

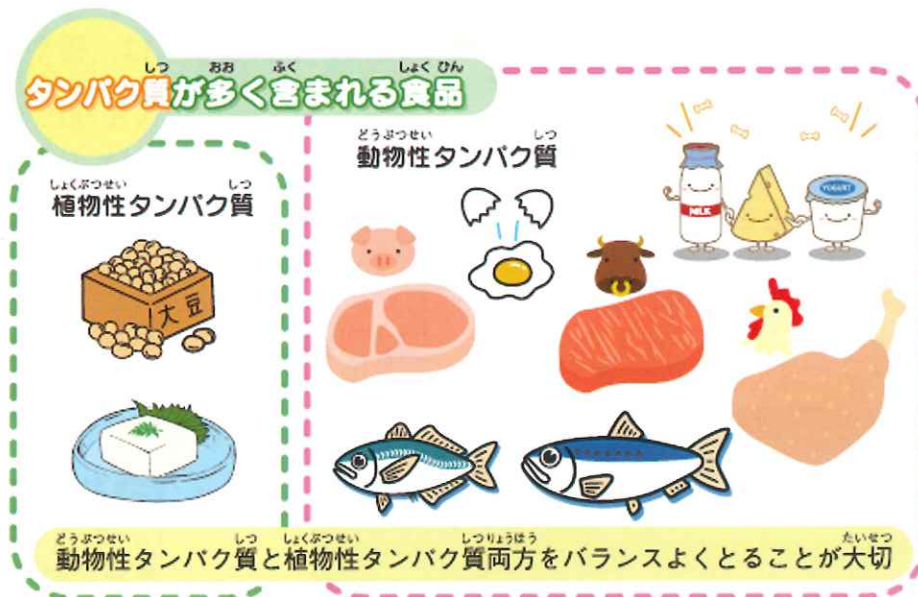
*1 平成31(2019)年2月21日学芸員筆記試験合格、令和2(2020)年6月23日試験認定合格

NST News Letter

No.25

NST (Nutrition Support Team の略、日本語で栄養サポートチーム) では、みなさんの「低栄養を予防すること」「口(くち)から食べる楽しみを1日も長く感じていただくこと」を目標に、入所者のみなさんの栄養状態を評価し、必要な栄養素の摂取量や食事内容の検討、食事指導等を行っております。検査科では入所者のみなさんの定期検査や随時測定された検査結果より血液中のたんぱく質やコレステロール、白血球の数やその種類、体中の組織に酸素を送る赤血球中のヘモグロビン値等を報告しており、またこれらの値より栄養状態の指標となる CONUT スコアというものを計算し、NST委員会に提出しております。これらの項目について説明したいと思います。

まずはたんぱく質について説明いたします。たんぱく質は、人体の生命維持に重要な栄養素で、炭水化物、脂質とあわせて3大栄養素のひとつです。人体の約60%は水ですが、15~20%はたんぱく質で、筋肉や臓器、肌、髪などを作っています。また、体内のホルモンや酵素、免疫物質、エネルギー源として使われることもあります。たんぱく質の材料には体内で作ることが出来ないものもあり、必須アミノ酸と呼ばれ、9種類あります。体の中で作ることが出来ないのもので、食事からたんぱく質を補給しなければなりません。食事から摂取されるたんぱく質には肉や魚、卵などの動物性たんぱく質と、穀類や豆などの植物性たんぱく質があります。



検査では血液中のたんぱく質の量を測定する総蛋白という項目があります。血液中のたんぱく質は大きく分けてアルブミンとグロブリンがあり、併せて総蛋白といいます。アルブミンは総蛋白の約60%を占め、水分を血管の中に保ったり、血管内の物質の運搬をしたりする働きがあります。グロブリンは細菌やウイルスから体を守る免疫機能において重要な役割を持っています。

総蛋白のほとんどは肝臓で作られます。肝臓の機能が低下すると総蛋白が低下します。

また、腎臓の機能が悪くなると尿の中にたんぱく質が漏れ出し、総蛋白が低下します。

そして、特に高齢の方では食事の量が少なくなったり、高カロリーの物を食べなくなる傾向があり、低栄養状態になりたんぱく質の量が低下します。低栄養になると体重の減少、筋力の低下、風邪にかかりやすい、傷が治りにくいなどの症状がみられるようになります。それによって活動量や食事量がさらに低下する悪循環に陥り、心身の状態が衰える“フレイル”と呼ばれる状態を招いてしまいます。

ちょっと恐ろしい話になってしまいましたが、このような状態にならないように栄養サポートチームは活動を行っています。

研究検査科 安藤 陽一郎

令和 4 年度 診療統計

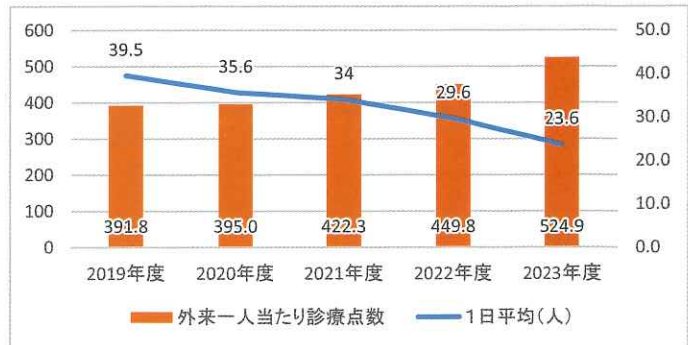
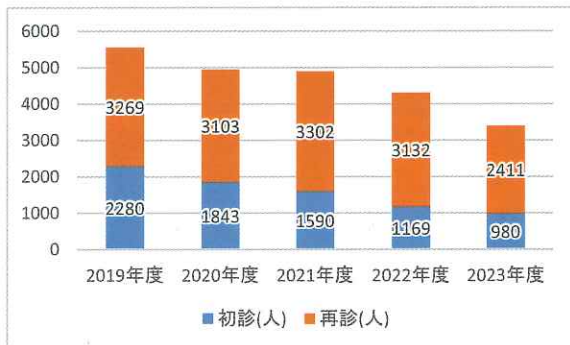
	外来診療					再掲		入院診療	分子標的薬	
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	延患者数(人)	導入	維持療法
4月	75	184	259	21.6	12	57	2	0		
5月	91	200	291	22.4	13	56	4	0		
6月	85	207	292	24.3	12	48	10	0		1
7月	92	183	275	22.9	12	49	4	0		
8月	91	214	305	21.8	14	50	4	0		1
9月	66	182	248	22.5	11	47	4	0		
10月	86	189	275	25.0	11	49	20	0		
11月	99	220	319	24.5	13	50	17	0		1
12月	94	206	300	25.0	12	48	6	0		
1月	58	187	245	24.5	10	43	5	0		
2月	73	214	287	23.9	12	50	7	0		1
3月	70	225	295	24.6	12	55	17	0	2	
合計	980	2411	3391	23.5	144	602	100	0	2	4

分子標的薬治療 6 名（実人数 導入 2 名、維持療法 1 名）

入院加療を必要とする重症患者なし。

管理職業務および感染対策による予約数調整のため、患者数は減少した。

分子標的薬治療と手術件数の増加により、診療点数は増加した。



学会発表

- 第 38 回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会（4 月 23 日～24 日・鹿児島市 ハイブリッド開催）
Aquagenic Wrinkling of the Palms と考えた 1 例
- 第 76 回国立病院総合医学会（10 月 7 日～8 日・熊本市 現地開催）
ビルダグリプチンによる DPP-4 阻害薬関連水疱性類天疱瘡の 1 例
- 第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会（12 月 11 日・鹿児島市 ハイブリッド開催）
左腋窩に有痛性皮下膿瘍を生じた Mycobacterium fortuitum 感染症の 1 例

論文発表

- 日本皮膚科学会雑誌 第 132 巻 8 号
本邦のハンセン病療養所入所者における皮膚癌の傾向
- 西日本皮膚科 第 84 巻 2 号
足底に発症した血管平滑筋腫
- 西日本皮膚科 第 84 巻 4 号
右大腿に発症した Mosaic Localized Neurofibromatosis type 1

人事異動

(令和5年2月1日～令和5年4月30日)

R 5. 3. 1	増本 美歌	調理助手	採用 (期間業務職員)
R 5. 3. 17	森下 良美	調理助手	採用 (期間業務職員)
R 5. 3. 31	佐多 卓也	薬剤科長	定年退職
	田原 直行	薬剤師	定年退職
	保 初男	調理師長	定年退職
	朝野 寿枝	介護長	定年退職
	永田 幸二郎	作業手	任期満了 (再任用短時間勤務)
	岩辻 好夫	福祉係(学芸員)	任期満了 (再任用短時間勤務)
	岡 美恵	事務助手	任期満了 (期間業務職員)
	東條 きよの	調理師	任期満了 (期間業務職員)
	小松 呉穂	介護員	任期満了 (期間業務職員)
	仲田 ノリ江	看護師	任期満了 (非常勤職員)
	上脇 勝教	事務長補佐	熊本再春医療センターへ
	岡部 達枝	庶務班長	西別府病院へ
	綾部 純一	庶務係長	沖縄愛楽園へ
	下大迫 将喬	作業療法士	宮古南静園へ
	林 理恵	副総看護師長	小倉医療センターへ
R 5. 4. 1	今里 憲太郎	看護師長	宮古南静園へ
	村口 武	事務長補佐	菊池恵楓園より
	毛利 安則	庶務班長	大分医療センターより
	井上 進	庶務係長	肥前精神医療センターより
	佐々木 幸作	薬剤科長	熊本医療センターより
	杉町 代	薬剤師	宮崎病院より
	二木 琢也	作業療法士	星塚敬愛園より
	衛藤 ゆかり	副総看護師長	宮古南静園より
	本 千鶴子	看護師長	星塚敬愛園より
	小松 呉穂	介護員	採用
	保 初男	調理師	採用 (雇用継続職員)
	朝野 寿枝	介護員	採用 (雇用継続職員)
	石野 春奈	事務助手	採用 (期間業務職員)
	中原 公子	調理助手	採用 (期間業務職員)

和光園日誌

(令和5年2月1日～令和5年4月30日)

R 5. 2. 2	花見会
2. 4	ライフサポートシンポジウムWeb配信 (沖縄愛楽園主催)
2. 9	消防訓練 (夜間想定)
2. 14	集団リハビリテーション活動再開
2. 15	第8回アニマルアシストセラピー
2. 16	看護研究発表会、いきいきわくわく発表会
2. 20	医療安全推進担当者実践報告会
2. 22	施設基準適時調査
3. 10	社会復帰支援事務担当者会議
3. 15	本省来園
3. 16	第9回アニマルアシストセラピー
3. 23	離任式
3. 31	辞令交付式
4. 3	辞令交付式
4. 6	新採用者等オリエンテーション
4. 12	鹿児島地方法務局長表敬訪問
4. 13	着任式
4. 27	第10回アニマルアシストセラピー

編集後記

この号がみなさんの手元に届く頃、奄美地方は梅雨入りしていることでしょう。

今までコロナで中止となっていた園内行事も、徐々にではありますが催され始めております。さらに今年

度は80周年記念行事も予定されています。

4月の人事異動に伴い和光誌編集委員も10人中7人が入れ替わる事となりました。皆、慣れない中での編集ではありますが、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

編集委員 田中 信